

令和8年3月号

春日部セントノア病院

〒344-0001  
埼玉県春日部市不動院野1112-1  
TEL048-760-1200  
FAX048-760-1201  
https://www.saintnoah-kasukabe.jp



今年もやってきました！  
ガオー！  
鬼は外！福は内！  
背中にカゴが？  
ふんふるほどね！



あっち向いてるなっ  
今だ！  
今年もやってきた鬼軍団。ゆとり世代？の患者さん達は鬼と争ったりせず...



さすがだね！  
弾薬の補給は私が！



こっちのアマツ子に  
ちょっかいかけるか！  
ほれ、ほれっ！  
任せて！  
私が気を引いてる隙につ！



あやだっ  
うれしいわぁ！  
あれっ？  
随分と色っぽい  
鬼さんだねえ



みなさん  
鬼ですよー！  
こっちにも  
来てー！

ほのぼのとした攻防の後、来年の再会を約束した鬼は静かに去っていきました。...とさ！

～目次～

- 病院短信 瓦井 洋
- 日常の一コマ 佐藤 ヒロ子
- いきいき看護・介護 内藤 利江
- 相談室だより 江原 佳世子
- 節分&誕生会 デイルームにて
- スタッフ紹介 和田 里穂

3月の予定

◇誕生日会

- 1病棟 3月13日(金)
- 2病棟 3月10日(火)
- 3病棟 3月9日(月)
- 各病棟デイルーム 14:00～



スタッフ紹介

1病棟 看護師  
わだ りほ  
和田 里穂

好きな食べ物：アイス  
嫌いな食べ物：玉ねぎ、ねぎ、ニラ



私が好きなものはスタジオジブリ作品です。映画はもちろん、ジブリ美術館やジブリパーク、期間限定で行われている企画展にも行きます。自分の子どもにも好きになってほしくて、おもちゃや本、洋服など、身の回りのものをジブリグッズにしています。これからもジブリグッズ収集を楽しんでいきたいと思っています。



## 病院短信

『認知症の専門病院として(その二)』

セントノア病院 創業者 瓦井 洋

何処の病院からも「邪魔者扱い」をされ、施設からも「追い出され」、最後の砦である家庭内ですら「家庭崩壊の危機」に見舞われる。それこそ「三界に家無し」状態になっているこの国の認知症の患者さんたち…。当時の病院業界は、そんな患者たちに手を差し伸べる事はしませんでした。唯一、精神科病院のみが一時的に入院を認めていたところもあったようですが、認知症患者と精神科の患者は医学的に見ても別物です。それに単なる噂だとは思いますが、精神科病院では医者や看護師の言う事を聞かないと直ぐに身体を拘束してしまうそうです。もしそれが事実ならば、認知症患者の人權はどこにあるのでしょうか。

そんな病院業界が手を拱いているうちに認知症患者は目に見えて増え続け、当然のように認知症患者さんの行方不明や、危険な行動が頻繁に報道されるようになってきました。私のモヤモヤは増え続けていき、いつそのこと自分のこの手で『認知症の専門病院』を創ってやろうか、そんな大それた気になって準備を始めたのが今から二十五年前でした。そしてその病院の内容は、患者さんの『入院期間を設けず』に『看護介護を通じてゆったりと穏やかな入院生活を送って』もらい、『最後の刻までその人らしく(人間らしく)入院生活を過ごさせて』やりたい。そう、まるでホスピスに準じたような認知症の病院なのですが、そんな病院が今の世の中には必要ではないのか、と本気で思ったのです。私も以前に埼玉県と神奈川県にホスピスを二つ創った経験があるのですが、ホスピスの患者も認知症の患者も、どちらも現代医学では治せない病気です。だからと言って今更ホスピスと認知症の病院を比べるつもりは毛頭ありませんが、でも、せ

めて私が創りたいと思った認知症の病院では、院内だけでも自由にさせてあげたい。医療が出来ない、看護や介護がやりにくいと言って『身体拘束をする』なんて絶対に許さない。そんな病院を創りたい…。

しかし病院の新規開設となればそんなに簡単にはいきません。しかもその頃の日本では、埼玉県はもろろんのこと全国でも認知症専門の病院なんて、まだ一つもなかったのですから…。それから二年半後、川越に出来上がったセントノア病院は私が思っていた以上に入院予約が殺到し、一年も経たないうちに百六十八床のベッドが満床になってしまいました。そんな状況に調子に乗ったわけでもないのですが、その三年後に同じ埼玉県の春日部市に春日部セントノア病院を創りました。もちろんこちらの病院もあつという間に満床となりました。しかし患者さんは来てくれたものの、実を言いますとこの二つの病院の運営はとても大変でした。何しろこの二つの病院のスタッフ達は、殆ど全員が認知症患者の医療や看護、介護は初めての経験でしたし、全てが手探り状態と言っても過言ではなかったのです。何とか全員で頑張るしかない…。そんな大変な思いをした一方で、ほんの少しだけですが、この世の中に貢献できる病院を創ることが出来たかな、と多少の満足感がありましたけどね。

それから二十年。二つの病院はまだ十分とは言えませんが、この川越・春日部のセントノア病院が背負った役目は、多分今後も続くと思っています。日本を含めこの世界の医学がもう少し力を付けて、三十年後か四十年後かは分かりませんが、認知症を治す薬が出てくるまではこの役目は続くだろうと思っています。その役目が終わるまでは、我々の病院は『身体拘束はしない』『延命を目的とした治療は行わない』『医療による寝たきりは作らない』『最後の刻までその人らしく』の四つの病院理念のもとに、職員が一丸となって頑張らなければなりません。それでこそ、医療従事者としての責任であり、誇りでもあるのですから。(終り)

## 日常の一コマ

今回は1病棟の人三(ひとみ)さん(87歳)をご紹介します。

人三さんは岡山県で同胞6人の末子として出生・成育され、27歳でお見合い結婚をされました。その後はご主人の仕事の都合で東京へ転居され、2人の息子さんに恵まれました。

育児をしながらパート勤めもされ、結婚写真を台紙に貼る仕事やファミリーレストランの調理場での仕事、中でも思い出深いのは「まだかな、まだかな～、学研のおばちゃんまだかな～」で有名な学研の教材配達はとても楽しかったですね、と話してくださいました。

そして年に1回は家族で旅行に出かける円満な家庭だったそうです。

平成23年にご主人が他界されてからは独居で暮らされていましたが、令和3年頃からだんだんと物忘れ症状が現れ、その後転倒され骨折し認知症症状が進行。リハビリテーション病院に入院中は職員や他の患者さんに対して易怒的(些細なことで怒りっぽくなること)で暴言もみられたそうで、令和6年10月に当院へ入院となりました。

当院では以前この新聞でもご紹介したユマニチュードという技法に取り組んでいるため、「患者さんと目線を合わせる、言葉は優しくゆっくりと、手首は掴まず手のひらを下から包む」の基本動作での対応を心掛けていると、人三さんに安心していただけたのか、今ではいつも丁寧な言葉遣いでニコニコと他の患者さんと会話されたり、楽しそうにレクリエーションに参加されています。時には小さい声の患者さんの訴えを私達に伝えに来てくださったり、とても優しい人三さんです。

忘れてしまうことも多いですが、いろいろ会話している時に「私は本当に優しい家族に恵まれて、幸せな人生なんですよ」と穏やかな表情でおっしゃいます。息子さんが面会にいらっしゃる日をお伝えした時のそれはそれは嬉しそうな顔は、息子さんにお見せしたいくらいです。

今は私たちが、ご家族に会えない時間を人三さんが安心して笑顔で過ごしていけるように、お手伝いさせて頂きたいと思っています。

1病棟 介護福祉士 佐藤 ヒロ子



## いきいき看護・介護

3病棟 介護員 内藤 利江

患者さんの症状は人それぞれ違うので、対応に困ることが沢山あります。その中のひとつのエピソードを書かせていただきます。

車イスに乗っている患者さんの車イスが少し動いたので「トイレに行きますか?」と声をかけると反応はありません。今度は立とうとする動作があつたので「これはトイレでしょ」と思い声をかけると「出ない」と言われてしまいました。でもしばらく様子を見ていたら立ち上がったのでトイレ誘導をしたら「あー漏っちゃう」と言われ、急いでトイレに座ってもらいました。「あー間に合った」とホッとした表情をされ「ありがとう」と言ってもらいました。尿意はあつても思いを上手に伝えられない患者さんのケアは難しいですが、成功した時の喜び、患者さんからの感謝の言葉に私は癒されます。

こういう時間が好きで、私は介護の仕事が続けられているのが嬉しいです。



## 相談室 だより

相談室室長 江原 佳世子

弥生3月となりました。三寒四温の言葉通り、寒さと暖かさが交差する日々が続いています。皆さんは先月開催されていたミラノ・コレティナ2026冬季オリンピックをご覧になっていましたか? 選手の活躍はもちろんのこと、それを支える家族・コーチ・仲間の強い絆が感じられて、とても印象に残りました。身近な人を大切に、おかげさま、おたがいさまの気持ちで過ごしていけたらと自身の思いを新たにしたいところです。

相談室では引き続き患者さんとご家族の皆さんのお力になれるように努めてまいります。入院生活にあたって何かお気づきのこと、ご心配なことなどがございましたら、お話を伺いますのでお気軽にお声がけください。当院でお過ごしになる時間が、患者さんとご家族にとって穏やかで大切なものとなるようお手伝いしていきたいと思っております。

また、もうしばらくすると桜の便りも聞こえてくる頃となります。

開院から20年が経過した院庭の桜は枝ぶりが豊かになってきましたので、ぜひ面会の際はお花見をお楽しみください。

